

講義予定

2025.10. 6. 大橋 幸泰

[概要と目標]

前近代(古代・中世・近世)、日本列島に暮らした生活者の営為をおもな材料に、学問として歴史に向き合う際の基本姿勢を学ぶとともに、現代の秩序を相対化できるようになる。

[予 定]

- 10月 6日 1.歴史的存在としての私たち(1)—日常生活のサイクル
- 10月 13日 2.歴史的存在としての私たち(2)—嵌め込まれる身体
- 10月 20日 3.歴史における境界(1)—国境・国民
- 10月 27日 4.歴史における境界(2)—マイノリティとマジョリティ
- 11月 3日 5.過去と向き合うための身構え(1)—民間学としての日本史学
- 11月 10日 6.過去と向き合うための身構え(2)—史料論と史料保存運動
- 11月 17日 7.中間小活—常識の可変性／歴史と私たちをめぐる議論の時間
- 11月 24日 8.日本前近代史の諸問題(1)—東アジアのなかの律令制／古代
- 12月 1日 9.日本前近代史の諸問題(2)—荘園公領制と権門体制／中世
- 12月 8日 10.日本前近代史の諸問題(3)—近世秩序の胎動／中世から近世へ
- 12月 15日 11.日本前近代史の諸問題(4)—幕藩体制の成立と近世社会／近世
- 12月 22日 12.日本前近代史の諸問題(5)—民間社会の成長と明治維新／近世から近代へ
- 1月 19日 13.総括—日本史という枠組み／日本前近代史をめぐる議論の時間
- 1月 26日 14.試験

[教科書]

須田努・清水克行著『現代(いま)を生きる日本史』(岩波現代文庫、2022年)【要購入】

[付 記]

- 1.次回以降、レジュメについては、前日 23 時 59 分までに Waseda Moodle にアップするので、各自印刷して講義に持参するか、ノートパソコンなどから閲覧すること。
- 2.試験のほか、小レポートを求める。小レポートの詳細は別途指示する。なお、小レポートを提出した者が試験の受験資格を得る。
- 3.大橋と受講生との間の緊張関係を維持するため、毎回、講義の要約(200～400字程度)を記した講義記録の提出を求める。講義中に時間をとって講義記録を書く時間を確保するので、ノートパソコンなどから、Waseda Moodle の提出先へ、講義中に提出することが望ましい。講義中に提出できない場合は、翌日(毎週火曜日 23 時 59 分提出期限)までに提出する。この提出をもって出席とみなす。箇条書きではなく、必ず文章にまとめること。ただし、講義記録そのものは評価対象にしない。なお、レジュメにはない語を一つ「本日のワード」として講義冒頭に指定するので、この語を必ず含めて講義記録を作成することとする。この「本日のワード」が不記載の場合は、出席したと認めない。